

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査（6年生）について

4月に6年生が行った全国学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、概要をお伝えします。この調査結果をもとに、児童一人ひとりが根気強く学習に取り組むことができるように引き続き取り組んでまいります。

## 国語

<課題>

「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと」は、字によって正答率の差があります。「相手や場面に応じて適切に敬語を使うこと」の正答率が全国や県の平均を下回っています。

<成果>

「相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと」「日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うこと」の正答率が高くなっています。

## 算数

<課題>

「円周率の意味について理解していること」「示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現すること」「 $180^\circ$  や  $360^\circ$  を基に分度器を用いて、 $180^\circ$  よりも大きい角の大きさを求めること」の正答率が全国や県の平均を大きく下回っています。

<成果>

「 $180^\circ$  以下の角の大きさを理解していること」「異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解していること」の正答率が高くなっています。

## 理科

<課題>

どの観点も全国と県の平均を下回っています。評価の観点ごとでは、問題によって科学的な思考・判断の力に差がありました。例えば、「回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ」という問題（複数の知識や概念を活用する必要がある）では、正答率が低くなっています。

<成果>

「物を水に溶かしても全体の重さは変わらないこと」、「乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わること」など、1つの条件が変化することで1つの変化が起こるという内容については、全国や県の平均を上回っていました。

## 児童質問紙

学校の宿題をしていると答えた児童は90%を超え、全国や県の平均を上回っています。一方、授業の予習や復習をしていると答えた児童は11%ほどでした。

地域の行事に参加したり、地域の人と関わった実感をもったりした児童が多くいました。

## まとめ

学習に関しては、平均を下回っている項目が多く、課題が多くあります。学習への取り組み方、学習方法等、基本的なことから引き続き指導してまいります。

自己肯定感の高さ、自然の中で遊ぶこと、地域との関わりなど、地域の力をお借りしながら、子どもらしい川和小学校の児童のよさを伸ばすことができるように支援していきたいと思います。